

第5回協力者定例総会を開催

「風化させない」決意新たに

07年度会計報告

【収入の部】

(円)

科 目	金 額	備 考
寄付金	1,246,000	48口個人、2団体
活動費	224,000	集金会費等
雑収入	7,611	
小計	1,477,611	
前期繰越金	245,467	
収入合計	1,723,078	

【支出の部】

科 目	金 額	備 考
新報費		
編集経費	4,663	
郵送費	216,080	
配布費	330,705	
訪問費		
交通費	400	
打ち合わせ他	4,304	
会議費	15,560	
事務備品費	18,365	
活動費	244,710	
通品費	155,645	
渉外費	147,181	
雑出費	10,020	
当期支出小計	1,147,633	
次期繰越金	575,445	

08年度 予算

【収入の部】

科 目	金 額	備 考
寄付金	400,000	個人 団体
雑収入	38,000	
前期繰越金	575,445	
収入合計	1,013,445	

【支出の部】

科 目	金 額	備 考
新報費		
編集経費		14~20号(3,000部)
郵送費	550,000	交通費、編集会議
配布費		切手 島内配布
訪問費		
交通費	30,000	50回
打ち合わせ他		
会議費	50,000	世話人会 協力者会議
事務備品費	30,000	
活動費		
通信費	150,000	郵便、電話代
渉外費	150,000	諸団体交流他
雑支出	53,445	
支出合計	1,013,445	

ふるさとネットは、4月6日に第5回協力者定例総会を実施。噴火災害を風化させないために活動の継続と強化をし全国発信すること、在京島民への訪問活動の充実、ネット活動を拡大強化することの3点を重点目標として決定し、活動を一層発展させることを申し合わせた。

第5回三宅島ふるさと再生ネットワーク協力者定例総会は、4月6日、巢鴨駅前のルノアール会議室にて14時から2時間行われた。参加者は佐藤会長、伊藤事務局長、大妻女子大学千川教授などの協力者を含めて全部で

12人。総会ではネットの規約改正、2007年度の活動経過、2008年度の活動計画案、昨年度の決算報告および今年度の予算案、ホームページ作成について提案された内容が承認された。今年度は帰島3年目の

情勢と課題をもとに以下のことを活動の重点として合意した。第一に「風化する噴火災害8年目の被害と再生の動きを全国発信する活動の継続と強化」。第二に、「在京島民への訪問活動の充実をはかること」。第三に、「ネット活動を拡大強化するために、島内活動、全国の支援者との連携、島の復興・再生の諸活動に協力すること」。

三宅島ふるさと再生ネット
役員任期は2年で来年度に改選を行う。

【会長】 佐藤就之
【副会長】 酒井一豊
大坊千代子
【事務局長・会計】 伊藤奈穂子
【世話人】 吉田信行 千川剛史

（退任） 矢野ちさと 海老原香里

（補充） 石松陽子 佐藤静香
（監査） 稲葉稔 横井和之

2008年度役員氏名
勝見吉雄 高松梅郎
山田貴久 吉田志織
京町 小林舞 潮香織
山尾啓予 原口真澄

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○第11回世話人会開催
日時：5月27日（火）18時30分から20時30分
会場：喫茶室ルノアール
会議室（巢鴨店）にて。

○困っている方はいませんか？
在京島民の方々のお宅訪問や、電話での相談・ご要望も受け付けております。事務局までご連絡ください。

○ご寄付のお願い
これからもよろしくお願い致します。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク
事務局：あすなろ保育園内
住所：〒173-0005
東京都板橋区仲宿 25-6
電話・FAX 03(3963)5697

会長時評

協力者総会で討議 情報発信の体制 さらに強化を 在京島民のアンケートも実施



4月6日に巣鴨で行われた協力者定例総会

全島避難指示の解除から4年が経ち、帰島できない在京島民の生活や、何の保障もない高濃度地区に家を持つ人の苦悩など、忘れられつつあるのが現状だ。ふるさとネットでは、在京島民に第2回目のアンケートを行うとともに、島内の生活再建の課題にも取り組みたい。

弾力的運営と透明性を
ふるさとネットは、皆さまのご協力を得て3年間活動を続けてきた。4月6日の協力者会議は、1面と別紙付録で紹介されているように今後の活動について重要な決定を行った。冒頭に規約を改正して第5回協力者定例会とした。
討論で帰島4周年記

念活動として、来年1月に2回目のアンケートを実施を決定した。当ネットは、ボランティア精神で議論をし、弾力的運営と透明性を持たせたいと思う。

忘れられている現状

3年間の活動で痛感する事は、情報活動の意義であった。三宅島が8年におよぶ噴火・火山ガスによる自然災害地であり現在でも救済をされない被災者が多数いることを訴え続ける「三宅島新報」は、全国に発信する唯一の情報紙である。3千部を発行し三宅島全戸配布体制を取り関係議員、行政、マスコミ、被災地の諸団体にも可能な限り郵送をしている。帰りたいくても帰れない在京島民の現状も知られていない。三宅島の噴火・



崖崩れが頻発する三池高濃度地区

火山ガスの放出で、45%の地域を立ち入り禁止など制限地区とし、その住民に住宅、経済保障も無きに等しい。今も喘息などの高感度者や、子供と片親たちが避難を継続している約一千人の存在が忘れられてきている。

悲痛な訴えに涙

在京島民の帰島への意欲は今も劣ることは無い。在京島民は、加齢が進み生活維持は容易ではない。子供たちも島の生活経験もなく、学業が終わり就職または進学してもわずかししか帰島しない。これでは島の人口増加は望めない。島内の不在家屋保全も8年経つともう時間的猶予はなく台風、泥流、シロアリ、湿気などで壊滅的である。三池など高濃度地区の自然破壊、住居破壊は目を覆うばかりである。訪問活動を通じて、不帰の客となる在京者や望郷の悲痛な訴えを聞き、涙してきたのである。

島内では生活再建も

今回の総会では、このような現状を直視して活動の重点を絞り込んで行きたいと話し合った。先ず情報発信の重視。「三宅島新報」隔月発行の維持。ホームページの充実など。訪問活動については、当初在京者には、戸別訪問、お米券配布、スクラップなどの情報提供、小集会など様々な活動を行ってきたが、今後は、必要としていたケアを重視して再構築をしたい。さらに島内では交流を深めて生活再建の課題も取り組みたい。(佐藤就之)

待ちに待った空港再開

祝賀行事 盛大に開催

村長「観光立島への一歩」と挨拶



冬柴国交大臣を迎える(右側)平野村長と高松議長ら(26日)

高濃度地区のため再開が遅れていた三宅空港が4月26日に再開。23日には、石原都知事などが参加して祝賀行事が行われた。飛行機が飛ぶのは、東向きの風のときに限られるなどの制限はあるが、それでも空港の再開は島民の悲願だったため、喜びの声が多く聞かれた。

帰島3周年を迎え、島民が待ちに待った航空路線が4月26日に再開した。23日には祝賀行事が行われ、石原東京都知事や国土交通大臣(代理)などを迎え、島民、三宅小・中学校の生徒が参加

した。始めに、御製碑小園(旧阿古小学校)にて御製碑除幕式、三宅島郷土資料館開館式典が行われた。平野祐康村長は、「全島民挙げてイベントができたことはこの上ない。観

光立島の一歩として今後もしっかりとやっていきたい」と話した。資料館には、古い遺跡や噴火の状況、漁具・農具など貴重な資料が展示されている。

都知事も参加しテープカット

資料館見学の後、三宅島空港にて航空路線再開



島民を代表して空港で出迎える浴衣姿の高校生

記念式典が開かれ、石原都知事、平野村長、全日本空輸(株)山本代表取締役社長らがテープカットを行った。その後、旧阿古小学校体育館にて式典の2部が行われ、石原都知事は

じめ来賓の挨拶、祝辞、全日空の山本代表取締役社長に花束が贈呈された。祝賀会では銘酒「雄山」の鏡開きが行われ、島の商工会婦人部の郷土料理とお酒が出され、和やかな雰囲気の中で出席者は空路再開を喜び合いつつながら歓談を楽しんだ。式典にて石原都知事は「島民・国民の力を借りないと島が立つて行かない。皆の周知を集め、やるべきことをやっていく。モーターサイクルフェスティバルは効果があり、毎年やっていく」と話した。

1日1便ずつの飛行

片道運賃は15800円

運行時間

- ・羽田発 11時45分
(1849便)、三宅島
着12時30分
- ・三宅島発 13時00分
(1850便)、羽田着
13時40分

※1日1便にて運行。
※料金：片道通常運

賃15800円、往復運賃12100円

(片道分)、小児運賃7900円(満3歳未満)その他各種割引運賃あり。

※ご利用問い合わせは、予約・受付センターまで。固定電話からは、

0120-010291
222(フリーダイヤル)。
携帯電話からは0570-010291
222(有料)。

インターネット
<http://www.ana.co.jp/>

運行会社：(株)エアニッポンネットワーク
※運行機種：ボンバルディアDH8-Q
300型機(56席)

舞踊家鶴吉さんが帰島支援のチャリティーを予定!!

ふるさとネットの会員で舞踊家の鶴吉さんが帰島支援のチャリティーイベントを準備しています。皆様のご参加お待ちしております。詳細は追ってご連絡いたします。

11月8日(土)または9日(日) 大田区民ホール・アプリコ(京浜東北線蒲田駅前)

五十嵐文子さん葛飾区のシンポに参加!

葛飾区主催で「防災シンポジウム」が2月1日に開催。全島避難当時、葛飾三宅会会長の五十嵐文子さん(伊豆)が災害体験者パネラーとして参加し発言した。シンポの内容は、HPで紹介されている。

[お便り]

先日は素敵な会にお招きいただきありがとうございます。あか抜けした、知性溢れる方々の集まりに加えていただきまして、久しぶりに心が豊かになった気分でした。明るく縁の下役を務め、歌い踊ってくださった園の先生方によろしくお伝えいただければ幸いです。再会を楽しみにしております。(赤池孝之様、元共同通信記者・作家 2月新年会のお礼のお便り)

[ご寄付者名](2月14日~4月20日)

大田久子様、佐藤宗ノ子様、佐藤就之様、中村徹様、山口仁様、T様

健康講座 3 回目の実施

及川先生などを招いて

3月

23日、ふるさとネット主催の第3回の健康講座を実施した。参加者は体操や捻挫の応急処置の方法などを学んだ。この面では、指導して下さった埼玉県立大学の及川裕子先生の感想などを掲載する。

健康講座における三角巾の使い方方の講習



三宅島災害支援ネットワークのメンバー4名で、3月23日から25日まで島に滞在させていただきました。今回は、健康講座の3回目として、勤労福祉会館で「誰でもできる簡単な家庭看護法Part 1」を行いました。

た。体操や、三角巾を使った応急手当の勉強会を行いました。お天気があり、33名の方の参加をいただき、楽しい会となりました。実際に三角巾を使ったり、捻挫の時の処置の仕方などを行いました。皆さんとても熱心に取り組んでいて、こちらも熱が入りました。身体を使った勉強会というのは、みんなで取り組む一体感を味わうことができている、と改めて感じました。

Part 2も

勉強会の後は、昼食を一緒にとりながら、いくつかのグループに分かれて交流会を持ちました。私は、何度かお会いした顔なじみになった方々と

参加者の声

「楽しい先生方の来島」

三宅島に勉強する場所がないので、先生方が来島してくださるのが楽しみです。生活の中で、できないこと、思いもよらない考えられないこと、

三角巾であのような使い方ができることにとても感動しました。今後もしもよくお願いいたします。栗本いずこ(70歳・伊豆)

私は避難中に母を亡くしました。その時にもう少し知識を持っていたら、あんなに面倒を見ないで済んだのに、と思います。4人の先生方の如才のないお話は、楽しくとても勉強になります。何回も聞きたいと思いました。上松京子(58歳・坪田)

編集後記

島民の悲願だった空港がやっと再開しました。それにより、一時帰島をする方々や観光客なども増えて、三宅島の復興、活性化につながることを期待しています。協力者総会で挙げられた課題などを解決していくために、私たちも今年度も引き続き協力していきたいと思っています。

(DTPA一同)

新報に関する意見を事務局までお寄せください。

この新聞は、向上高校新聞委員会の卒業生がつくる「DTPA」が編集作業を担当し、大妻女子大学人間関係学部千川研究室が印刷に協力しています。